



ROTARY CLUB OF

# NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN  
2650 No. 2297

2017. 11. 9

創立 1969年(昭和44年)12月13日  
例会日 毎週木曜日18:00より  
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地  
例会場 奈良ロイヤルホテル内  
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2017～2018年度  
国際ロータリーのテーマ

2017～2018年度  
地区のスローガン



ロータリー：  
変化をもたらす

## 愛着と誇り

国際ロータリー会長  
イアン H.S. ライズリー

RI第2650地区ガバナー  
田中 誠二

会長	有馬 康明	副会長	追山 重法		
幹事	川野 隆祐	会計	猪上 正孝	会場監督	榎木 晋作
理事	追山 重法	理事	奥田 裕一郎	理事	佐川 寛一
理事	小原 壮一	役員	大濱 正徳	会報委員長	金田 宗寛



2017～2018年度 内輪会  
グランドチャンピオントロフィー

## 2017～2018年度 国際ロータリー第2650地区 田中 誠二ガバナー公式訪問特集



### ■合同公式訪問プログラム

15:30～16:30 平城京RC会長・幹事・役員懇談会  
16:45～17:45 奈良西RC会長・幹事・役員懇談会  
18:00～19:00 例会(ガバナーアドレス18:30～)

■同行者

ガバナー補佐

中窪 啓司様

■随行者

副幹事長

室 公博様

今月はロータリー財団 月間です

第15回(2297回)例会プログラム平成29年11月9日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「君が代 奉仕の理想」
3. 来訪者紹介・出席報告
4. 会長の時間・会長報告
5. ニコニコ報告・委員会報告・幹事報告
6. 卓話「知財活用について」  
知財アドバイザー 田中 栄一様
7. 閉会宣言・点鐘

本日の担当事務員: 杉山、藤原

第14回(2296回)例会報告 2017. 10. 26

ソング

「君が代 奉仕の理想」

来訪者紹介

田中 誠二様 国際ロータリー第2650地区ガバナー  
 中窪 啓司様 国際ロータリー第2650地区ガバナー補佐  
 室 公博様 国際ロータリー第2650地区副幹事長  
 コルネ・ヌマイヤ君 2017~2018年度国際青少年交換受入学生

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2296 回	45	9/11	26/34	8	84%
通算2294回修正	44	9/11	31/33	2	98%

幹事報告 (川野幹事)

●11/2(木)は休会です。11/9(木)ロイヤルホテルにて通常例会・臨時総会です。お間違いのないようお願い致します。  
 当日は17時より第8回理事会です。理事・役員の方は宜しくお願い致します。  
 又、11/16(木)第2回クラブフォーラムです。前回の家庭集会でも、テーマに取り上げた「増強」についてももう一歩踏み込んで、手段や方法をより具体化し動き出せるようディスカッションして頂きたいと思っております。  
 目標の50周年50人を確実にキャッチアップできるようご協力よろしくお願い致します。

ニコニコ報告

有馬康明会長

田中ガバナー、中窪ガバナー補佐をお迎えして平城京RCとの合同例会を祝して。  
 昨日、奈良県下ロータリークラブ親睦ゴルフ大会シニアの部で準優勝させていただきました。

林秀彦、渡邊巖、川野隆祐、金田宗寛、榎木晋作、野阪幸男会員

本日、田中ガバナー様、宜しくお願いします。アドレス楽しみにしています。平城京RC様、本年度合同例会ホスト、お世話になります。

松川信夫、吉村信男、小原壮一、追山重法、奥田裕一郎、内藤源美、松山悦啓、植野洋志、笹本真琴、植野教夫、浅野晋良会員

田中ガバナー、中窪ガバナー補佐をお迎えして、平城京との合同例会おつかれさまです。県下ロータリー親睦ゴルフ、有馬会長準優勝、我がクラブ4位、おめでとうございます。

杉村仁会員

ガバナーご一行様のご来駕、大歓迎いたします。ニコニコ。

三木武彦、山上巖、谷垣嘉輝、熊井増典、小松玲子会員

田中誠二ガバナー御一行様、本日はご指導宜しくお願い致します。福川氏の新入会を祝し、ニコニコ。

津山初雄会員

田中ガバナー殿、ご苦労さまです。アドレスを楽しみにしています。でも、皆出席いただきました。いいのでしょうか。

安井清悟会員

田中ガバナー様、色々教えて下さいませ。アドレス楽しみにしております。渡邊先生、今週お世話になりました。今後ともよろしくお祈りします。

猪上正孝、佐川寛一、下村由加里、竹田知弘会員

ガバナー公式訪問、お疲れ様です。ニコニコ。

田中誠二ガバナー様

中窪啓司ガバナー補佐様

室公博副幹事長様



## 会長御礼の言葉 (有馬会長)

奈良西RCの有馬でございます。本日は田中ガバナー、中窪ガバナー補佐、室副幹事長様、長時間にわたり平城京RC、奈良西RCのためにご指導いただきまして本当に有難うございました。先ほど会長、幹事、委員長懇談会では御指導いただき誠に有難うございました。

ガバナー公式訪問も後1回で終わりと聞いております。最後はホームクラブでの公式訪問体調に気おつけて下さい。今年度は田中ガバナーのスローガン「愛着と誇り」を持ってロータリーライフを楽しみ、お互い尊敬し、絆を深め地域社会に貢献したいと思っています。今日は平城京RCさまには大変お世話になりました。有難うございます。ロータリーの友情に感謝です。本日は長時間に渡り田中ガバナーにはご指導いただきまことに有難うございました。簡単ではございますがお礼の言葉とさせていただきます。



## 第一回 会長・幹事会



## ■ガバナーアドレス

### 国際ロータリー第2650地区ガバナー

田中 誠二 様

皆様こんにちは。

改めまして国際ロータリー2650地区2017-18年度のガバナーを拝命いたしました田中誠二と申します。どうか宜しくお願ひ致します。

今日は大変天候にも恵まれて私も95クラブ目の訪問となります。

ガバナー公式訪問10クラブでの合同公式訪問を前に最終のクラブの訪問となりました。そういった意味で皆様方のご精進の勢いを受けて今日は晴天に恵まれながら有馬会長そして喜多会長お揃いで、そして皆様方とともに玄関前でお出迎えを頂きましたことにも改めて御礼を申し上げます。

そしてもう一つ御礼ですが、奈良西ロータリークラブさん、来年再来年で50周年、大変歴史と伝統のあるクラブでいらっしゃいます。

そして平城京ロータリークラブさんは中窪ガバナーさんの御膝元でいらっしゃいます。2年後に35周年を迎えられ、このクラブさんの自由清新な香りのする、また喜多会長、男女を問わず、リーダーがそれぞれに素晴らしい。

有馬さんも含めてリーダーシップをおとりになりクラブに公式訪問をできましたこと大変心強く思います。

合同で今年も継続して開催を頂きましたことに、またご理解頂きましたことに大変感謝を申し上げます。

私は京都東ロータリークラブからやって参りました。この6月11日で還暦を迎えさせて頂いて、60年のこの人生の節目の年にガバナー職という重責を拝命致しましたところ大変緊張しております。

自分の使命、役割全うできますように意志と覚悟をもって今年一年間頑張ってお参りたいと思ひます。

また、これまで今年には台風も多かったですし、事故や災害に遭遇する事もなくこの95クラブ目の公式訪問をそういった意味で迎えられることにも感謝を申し上げて、さて早速、私のアドレスに入っていきたいと思ひます。

ガバナー公式訪問のアドレスには幾つか目的がありまして、先ず一番目を申し上げますと、ロータリーの最大の関心事をクラブの皆様方に分かりやすく伝えよという、そういう使命がございます。

これは今年度のイアン・ライズリーRI会長の年次テーマであります『ROTARY: MAKING A DIFFERENCE』ロータリーに変化をもたらすというこの意味合いと今年一年間の国際ロータリーの運営方針について、今日はそれを中心にお話をさせて頂きたいと思ひます。



次に訪問の大きな目的は、皆さんご存知の通り私たちロータリアンは日々奉仕の心を例会や奉仕の具体的な事業への参加を通じて温めながら、そして友愛、親睦の輪を広げることで、所謂奉仕の精神、そしてその証として奉仕の事業に具体的に参画して行動に奉仕の心に移していくこと、これが非常に重要であります。

皆様方には改めて奉仕事業への参画、もちろん日々のロータリアンとしての奉仕の心を高めること、これも重要でありますけれども是非、具体的な地域の課題に対して、あるいは国際社会の地域の課題、或いは地域の助けを求め声に手をさし伸べる具体的な事業の組み立てと参画についてぜひ願ひしますという、そういう啓発を下さいという事でもありますけれども、2クラブ共に大変素晴らしい事業を展開されています。

私はこの場で繰り返し申し上げるのも恐縮でありませぬけれども、まずは例えば平城京ロータリークラブさんは、子どもたちにサイエンス、理工系分野に対して幼少から関心を持っていただくという事でロボット製作の支援事業です。

これは私たちの責任世代である子供たちに、文献も大事ではありますが、ロボットを通じてサイエンス、科学に対して興味を持ち、そしてその分野を支える、これを社会的にもそれを発信して支える、そういう志を持つての青少年育成であります。

それから、大変感謝を申し上げたいのは、改めて奈良西ロータリークラブさんです。今日も来てらっしゃいますけれども、青少年交換に関しては長らくこの留学生を派遣する、受け入れをやってらっしゃいますし、それから米山奨学生に関しましては27名、歴代、延々と続けられていらっしゃいます。

現在はヨウタクヤさん、奈良女子大の大学院に通う奨学生を受け入れて頂いていますし、そして地区補助金を活用されてイギリスオックスフォードに若い世代を日本から世界に海外に雄飛する人達が少なくなつてそれが危惧されて久しい中であつて、継続してこうした人材を日本から世界に送る事業の展開もされています。

まさにロータリーらしい地域にインパクトのある、ダイナミックでロータリーらしい活動だという風に改めて皆様の努力に敬意を表し感謝を申し上げます。

さて、ライズリーさんの「ROTARY: MAKING A DIFFERENCE」の隠された思いを紹介したいと思います。

ロータリーに変化をもたらす、のメッセージは大変シンプルで、これは私たちは奉仕の活動を通じて、人々の人生をプラスに変える、そしてその人生をプラスに変えることで、地域に国に、そして世界に変化をもたらしながら、やがては私たちロータリアン一人一人の心の中に奉仕を通じて、人様の役に立ったなという実感、或いは奉仕を通じて、老若老壮青、関係なく継続して人生が豊かになったな、人として更に成長できたなという、そうしたそれぞれのやりがいや充実感、これがクラブで共有されることによってお互いにより善き人生を歩んでいくという実感、それをもってクラブロータリーの発展に繋がる、そういう一年間にしようというのが「ROTARY: MAKING A DIFFERENCE」の会長の思いであります。

この話を少し今日は重点的にさせて頂けたらと思うわけですが、ガバナーになるには幾つか条件があります。

それはガバナーノミニの時代、ガバナーエレクトの時代、この2年間にわたって国際ロータリーが指定する様々な研究会やセミナー、そして行事に必ず参加をして、そして自分の資質を高めよ。そしてメンバーの皆様方にその内容が分かりやすく語れるぐらいになるまで自分の知識を深め、そして様々な交流を通じてその思いを伝えるすべを作れ。

大変厳しい2年間でありましたけれども、私の同僚は世界に540地区あるわけで、540人のガバナーがいるわけですが、その研修の集大成が毎年1月の中旬に8日間かけアメリカはカリフォルニア州、軍港の町として大変有名でありますサンディエゴという町で国際協議会という最終のロータリーの研修会が開催されました。



その時に初めてRI会長エレクトのアドレスを聞きました。

ちょっとプログラムを紹介しますと、全体会議が8回ぐらい、8日間毎日開催されて、その後はテーマに従って分科会、ディスカッション形式で、RI執行されている方はご存だと思いますけれども本当に一日中ディスカッションで、ランチ、ディナー食事ですね、今日のようなラウンドテーブルで、パワーランチ、そしてワーキングディナーと称してロータリーのテーマについて食事しながら話し合い、反対に話し合いながら食事するという感じですね。いずれにしてもそういう機会に恵まれて大変勉強させて頂きました。

その時の全体会議での幾つか、ライズリーさんのスピーチが大変印象的で、そしてこれが方針のコアとなるものでありますので、今日は皆さんと2、3シェアをさせて頂きたいと思います。

まず、2016年の規定審議会の結果を受けて皆様方がクラブの細則をクラブ内で充分ディスカッションされて定義されたという風に伺っています。2クラブ共に大変すばらしい模範的なクラブ細則の描き方がありました。定款もしっかり最新版になっておりましたことを確認させて頂きました。

その中で、よくお知りの方は我慢して頂いてちょっとおさらいをしますと、何が変わったのかという事なんですけれども、まず、会員の種類。今まで世界名誉会員だったものがそれに加えてサブカテゴリーの会員の種類を増やしていいです。これは今日もご入会頂きましたけれども、法人会員、そして家族会員、或いはローターアクターは2重会員で大丈夫、そしてそれ以外にも準会員と称して様々なサブカテゴリーの会員の種類を設けている。

そして会費、入会金に関しても、これまでは平等の原則でありました。これからは皆様ご存知の通りこのサブカテゴリー、すなわち会員の種類に応じて入会金は取らなくてもいいし取ってもいいし、或いは会員に関しては会員別にその取る額が変わってもいいという事になりました。

加えて、これがいちばんのポイントでありますけれども例会が月2回以上でいいです。ということでもあります。

ベテランロータリアンの皆様方から、そしてシニアリーダーのクラブ内の皆様方からクラブ訪問をさせて頂いて、お叱りの声をたくさん聞きました。

月2回の例会で本当にいいのか、ロータリーの原点は例会である。これは奉仕の心を磨き高めるのは、まず例会の場、そしてその奉仕の輪を親睦の友情の輪を広げながらそこでつくるのも絆をつくるのも例会の場、すなわち例会は奉仕と親睦の融合の場である。それを月2回でええとはどうゆうことやねん。という、ちょっと言葉が強くなりましたけど、今の表現の強いぐらいのニュアンスで、お叱りを頂いたこともありました。

それからもう一つは4つのテストに照らし合わせてみても、会費・入会金が会員の種類によって変わるの納得がいけない、みんなにとって平等であるはずの4つのテストであるということでありました。

さてライズリーさんはこのように仰いました。2016年の規定審議会の結果を受けて、その内容についてどのようにクラブの運営に反映させるかは、これはRIが方針を出すのではなくて、この「柔軟性」というひとつのキーワードからクラブの皆さん方それぞれがクラブの未来図、有りたい姿、これを十分に談論風発議論されて方向づけをし、それに伴って必要であればクラブの例会の回数、あるいは会員の種類、どうぞ変えて下さい。その多様性が実はこれからのクラブ発展の力であり、そしてロータリー発展の源泉であるという風に仰いました。

少し解説をいたしますと、国際協議会に参加させて頂いて規定審議会の内容、ニュアンスというのを少し自分なりに咀嚼できましたので皆様に1分間ほどで披露してみたいと思います。

皆様良くご存じの通り、定款細則を規定する議案を3年に一回規定審議会が行う立法案の中でも不正定款と呼ばれる案件であります。これは、クラブやRIの仕組みを規定する定款細則について議論する改訂改善について、あるいは維持について、そしてこれには540の世界の地区があってそれぞれ代表議員が選ばれて、そして多数決で審議した結果いわゆる細則の方向性を決めるということでありました。

今回の規定審議会の結果、先ほど申し上げた3つの主要な変化につきまして、規定審議会が民主的なプロセスの中で決めた事、と言うのがまず前提に申し上げます。

議論の中身はなんだったかと申し上げます。

月2回以上の例会の事で申し上げますと、例会の親睦と奉仕の融合の場とするならば、親睦をとってみれば、今日は食事時間が10分程でありました。卓話に30分、会長の時間に5分、会務に7分～10分、例会の運営が悪いと言ってるわけではなくて、今日はたまたま入会式もありましたし、反対に規定審議会の議論の結果、過半数を超えるクラブの声は、たとえば月4回は例会はやるけども、例会の時間、タイムテーブルを分析してみると、交流の時間が10分から15分、これでは、老壮青、老若のコミュニケーション、交流ができえない、だから実際の奉仕事業に月4回のうち1回でもいいから、組み換えさせて頂いて積極的に奉仕事業を展開していく中で、或いは親睦行事を展開する中でコミュニケーションを主体としたそう言う場として、老壮青がそろって1つの事をやり遂げる。

そう言う事業を通じて親睦をひろげ、奉仕の心を温める、そういう機会にもしたいと言う内容でありました。

これをもって皆様方がこれを聞かれて納得されるかどうかは別としてそういう議論があったという事でございました。

もう一つ、どうしても月4回以上、これまでの例会回数に維持したいという方々は、私は今現在、我々役員の方でありますので私見を述べるのは留めますが、その場合は是非1地区5件まで5議案まで規定審議会の立法案に議案上程することが許されていますので、是非国際社会を巻き込んでその議論を届ける、そういう努力をしていく、これは3年6年では出来得ないかもしれませんが、10年の中期のスパンで考えると、もう一度、振り子を左に振ったものを右に持ち返すという事はできるかもしれません。技術的にはそういう事であるという事でありました。



しかしながらライズリーさんはこのように仰いました。

規定審議会の結果を受けて、でもこれはロータリーの本質を変えるものではないと明言されました。全世界の皆さんご存知の通り、200の地域、国を超える中、3万5千のクラブ、540の地区が存在し、ご案内の通り123万人の会員を有する国際ロータリーであります。その中で112年の歴史の中で、1905年にポールハリスがクラブを創始してから112年目となる今年ですが、ライズリーさんが仰ったのはこの120万組織をこれまで繋いできたものは2つあります。

これだけは普遍的で、これからも変えないでほしい。そしてこれからも変わらないであろう。と仰ったことは、倫理の重視と、超我の奉仕への献身と仰いました。

もう一度申し上げますと「倫理の重視と超我の奉仕への献身」この2つはロータリーの普遍的な軸であり、今までもこれからも私たちが大切に次の世代に伝え育むべきものという風に明言を何回もされたことが大変印象でありました。

皆様よくご存じの通り1923年セントルイスの国際大会において、決議23、34という社会奉仕の声明文が採択され、それがロータリーの基本理念で今なお、歴史的な文書としてそしてロータリーの基本理念を示す内容として今も引き継がれており、2016年の手続き要覧の第1章にもその基本理念の中で決議23、34がでています。

しかしながらこれは歴史的な声明文として価値あるという視点から掲載されている訳ですけど、私はこの中に描かれてある皆様よく御存じのロータリーは何という基本的な理念の中で、基本的にはロータリーは人生哲学であって私たちのロータリアンの気持ちには2つ存在します。

1つは利己的な自分の気持ち。自分軸。

そしてもう一方は、そうはいっても人のために折角生まれたからには職を通じて、或いは人様そして社会の役に立ちたい日本語でいうと「利他の心」。そして私たちはいつも利己的な気持ちと利他の精神、その二律、相反する自分たちの気持ち、迷い、その相克に対して悶々とする訳ですけれども、ロータリーは基本的な人生哲学というのは、そこでその相克を矛盾を和らげるのが私たちの人生哲学の基本、理念でもあります。



超我の奉仕「Service Above Self」余計に英語でもわからなくなりましたが、私流に解釈すると、自分の人生の座標軸を自分軸ということだけではなく、それをもっと広く、世の為人の為、社会に尽くす、そのことで自分の仕事やそして人生を通じて自他の気持ちをもって、人様の役に、そして奉仕を続ける、そしてその中で職業を通じて、私たちは自分たちの仕事を更に高潔なものに磨き高めながら、高潔なものというのは、倫理を重視し、そして道徳的水準を自分たちの職業の中で高めていく中で、それがその気持ちが大きな輪となってロータリアンの社会に対して良い影響を与えながら、ロータリアン内部の中でその人生哲学が共有されるのみならず、最近の言葉でいうと「creating shared value」でしょうか。

地域社会と同じ共通する価値をもって、地域の課題に対して解決をしていこうという、そういう人の輪の広がり運動に繋げていきたいと思いますというのが私たちの使命であり、ロータリーの目的に欠いてあるものと私は理解をしています。

改めてライズリーさんが超我の奉仕への献身、これは世の東西を問わず、大変重要ですよという事を仰ったこと、私は最近のシニアリーダー、国際ロータリーの中で、これほど強調されるリーダーはいらっしゃらなかったのが大変誇りに思いましたし、安心もいたしました。



さて、ライズリーさんのロゴを解説したいと思います。この時点で。

これは私も初めて国際協議会に行って解説を聞いてなるほどなと思ったのは、この年次テーマ、歴代の会長さんが年次テーマを決めます。

そしてそのテーマを世界123万人のロータリアンに分かりやすく1年間で浸透し伝えなければいけません。

言葉のみならず、このマーク、ロゴでもって皆様に分かりやすく伝えられるかどうか分かりませんが、思想設計、概念を造形化して伝えるということでありました。

ライズリーさんのマークの意味合いを申し上げる前に去年のジョンジャームさんのロゴを覚えてらっしゃいますか。その前の2年前のスリランカご出身のラビンドランさんのロゴは皆様覚えてらっしゃいますでしょうか。

試してるわけでも何でもなくて、この共通してる点はジョンジャームさん、ラビンドランさん、実は地球儀、地球のグローブですね、これをモチーフしています。

ジョンジャームさんはアメリカ出身でありましたので北米大陸が真ん中にボンときて、日本はその中にありません。その前のスリランカのラビンドランさんもそうです。

私は、「ああそうか、国が違うとそういう見方をするんだ」と思ったのは、我々の地球儀というか世界地図は真ん中に太平洋があって右側に南北のアメリカ大陸、左にアジア・ヨーロッパ・アフリカ大陸があって、大体日本が真ん中あたりに来るんですけども、ラビンドランさんの地図はその反対でした。

大西洋がちょうど真ん中で、ですから日本は裏側で出てきません。これは国際ロータリーが日本をパッシングしてるということを申し上げたいのではありません。

改めてライズリーさんのロゴを解説したいと思います。ライズリーさんは大きな丸の中に高さの違う円柱、そして色合いが違う円柱が居並んでいる、それをロゴとされました。

これは人が真ん中に。ロータリーそしてそのロータリアンは国境、人種、国の社会体制、或いは言語、その違いを超えてお互いに異なるロータリー感、個性を認めながら相互に敬愛して、真っ直ぐな円柱ですから、高みを目指して奉仕の理想に向かって随所に活躍する、そういう様子を、そして多様性をもってそれを力として躍動するロータリーというのがライズリーさんの思いであります。



改めてその視点から、まずライズリーさんが仰った2つの非常に重要な点を言います。

22世紀を迎えて私たちのロータリーの存在価値は今のように存続できるのかどうか。もっと一歩踏み込んでいうと、22世紀を迎えると今から80年後であります。そこで今それぞれのクラブが80年後存続できるかどうか。これは80年後の事だから何もしないという事ではなくて、これから大きく変わるのであろう世界の環境の変化、様々な環境、それは自然環境もあるでしょうし、ビジネスの環境、文化の環境もあるかもしれません。

その変化に対して私たちクラブ、ロータリアンがどのように適合していくか、そしてその責任世代として、今からその構えをクラブに長期的な視点で持続可能性のあるクラブの発展という概念をクラブ運営に取り組んでいく、その責任がそろそろ私たちにあるのではないかと仰いました。

そんな中で1905年ポールハリスがロータリークラブを創始した時代、ポールハリスが36歳でありました。そして今の会員の平均年齢なんですが、40歳未満の比率は世界平均5%です。そして10年前は10%だったそうです。会員増強の観点から、ロータリーの平均年齢が加齢化する事を駄目だと仰ってるのではなくて、こういう観点から若い世代が必要だと言う事を仰いました。

いつの時代もその年度年度、ロータリーにおいてはクラブにおいてはRIIにおいては地区においては、そのお世話役、リーダーシップを発揮する人材が必要である。

会員増強という観点から、数ではなくてリーダーシップをとれる人材の育成、それをクラブとしてきちんと中期でその仕組みを作っていく事、それが大事です。それは卓越したベテランロータリアンの熟練のロータリー感、そしてクラブを発展的に運営していくそのノウハウ、これを若い世代にきちんと伝え育んで、常にその年度年度でお世話役、リーダーシップを能動的に発揮する人材の育成、これは継続して取り組まなければならない、これは老壮青の年齢比率の問題ではなくて中身の問題と仰いました。

もう一方でジェンダーバランス、男女比率の問題も仰いました。

これは、私たちには1800の市町村があります。日本の各クラブではその市町村と連携して様々な奉仕事業を行っていますが、どの市町村も恐らく、自治体は男女共同参画社会を目指しているのではないかとこのように思います。その観点からライズリーさんは私たちが奉仕の対象とする社会が男女共同参画社会という理想を目指すのであれば、その社会を対象に奉仕をする私達も男女同権の比率を目指すことが健全ではないかという視点を仰いました。



世界のロータリアンの男女比率は21%が女性、79%が男性。我が地区においては4.2%が女性、日本の平均は6.6%が女性、世界の540の私の同期のガバナーの103名が女性であります。

これをもって是非女性を増やしたいと申し上げるのではなくこれから様々な時代の変化を通じて、クラブが個性と魅力を大いに発揮する中で是非、持続可能性というキーワードの中で、中長期の観点から奉仕のプロジェクトや会員増強については皆さんが未来図を描きながら、果敢にクラブの運営発展に取り組んでいくこと、その為にもクラブに、私たちの人生に、そして私たちの仕事に家庭に愛着と誇りをもって、自分たちのロータリー感を日々磨き高めながら、それをもってロータリーの理想を語る、そうすると恐らく異なりをお互いに認めながら、相互に敬愛して、一旦決まった奉仕の理想に向かうクラブの決断に対しては一致団結して迎えるのではないかとこのように理想を一年描いてみました。

どうか2017-18年度が皆様方にとって素晴らしい年度でありますことを期待申し上げまして、アドレスとさせていただきます。ありがとうございました。





第16回 (通算2298回)例会予告  
例会日 平成29年11月16日(木)  
第2回クラブフォーラム

次回の担当事務員:杉山 木下